

「どっちが前ですか？」土手

中国自動車道を走っていると「太陽の塔」が見えてきます。田舎者の私としましてはその都度、「おっ！」と何となくですけど反応してしまいます。1970年に開催された大阪万博のシンボルです。ゆっくり見たことが無かったので、背中側？から写真を撮ってきました。さて約50年の月日が流れ、2025年5月3日に再び大阪万博が開催される事になりました。このご時世ですので色々とはあると思いますが、関西人としては大成功で終わってほしいなと願うばかりです！その前には2020年7月24日の東京オリンピックが控えております。楽しみですな～！そして、その前には2019年3月15日の確定申告の申告期限が控えております。早く終わらないかな～。。。(+_+)



(昭和っぽく撮りました↑)

今さら聞けない 経済用語

今月の教えてキーワード：【特別背任罪】

取締役などの地位にある者が他者や自分の利益を図り会社に財産上の損害を与えた場合に成立する。旧北海道拓殖銀行の不正融資事件や大王製紙の巨額背任事件など、不正融資や不良貸付が近年の事例として知られる。背任罪は刑法で規定され従業員などに適用されるが、企業経営者は責任がより重いことから特別背任罪としてそれ以上に重い「10年以下の懲役または1千万円以下の罰金」が科せられることが会社法で定められている。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【島津に暗君（あんくん）なし「島津義弘」】

戦国時代に九州全土の制覇と島津家存続に奔走した島津義弘は、1535年、薩摩国に生まれました。これは織田信長が生まれた翌年で、2年後には豊臣秀吉、7年後には徳川家康が生まれています。島津家15代当主・貴久を



父に、治政・文教に秀でた忠良を祖父に持った義弘は、4人兄弟の次男として幼い頃から勇武を好み、剣術を学びながら山中に野宿して野陣に親しむ日々を過ごしました。19歳の頃に岩剣城の戦いで初陣を飾って以降、九州制覇の野望に燃えて常に戦の最前線に身を置き、敵には時に鬼と恐れられるほどの武勇を誇りました。兄弟の中でも特にリーダーシップに優れ家臣に慕われたという義弘ですが、その基盤は祖父・忠良によって施された教育にありました。忠良は神道、仏教、儒教をベースに武士の道を説いた

「日新公いろは歌」を完成させ、これは後に薩摩藩の家士教育の核となりました。そんな忠良の教育は、画一的に知識を詰め込むものではなく、4兄弟の個性に合わせて教えを授けていたそうです。例えば戦における秘策についても義弘と長兄・義久へは異なる答えを示しました。こうして義弘は「島津の退き口（のきぐち）」として知られる関ヶ原の戦いでの戦略的な撤退をして、島津の名を強烈に残したのです。複雑な思考と単純な決断、そして決断を貫く精神力は、今の世にも必要な力といえそうです。

今を生きる

先人の言葉

経営は科学。
数字も入れて
話しなさい

多くのチェーンストアを育てた経営コンサルタントである渥美俊一という言葉。夢や希望をかなえたければ、そこに日付や売り上げなどの数字を入れることが大切だ。

トレンドを斬る!

物価の安い外国に長期滞在する「外こもり生活」。東南アジアで外こもり生活を楽しむ若者が今、増えているようです。日本で

1年間ほど短期就労で働き、節約して貯めたお金で観光ビザでの滞在が可能な国々を転々とするスタイルです。都市によっては日本食の店舗やインフラなども整っており、コミュニティのしがらみもなく快適に暮らせます。年齢が上がるにつれ継続は難しそうですが、日本での暮らしを見つめ直し、人生を再考する機会として有効かもしれません。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント：【人の思いを大切にした商売】

「世の中に たえて桜の なかりせば 春の心は のどけからまし (在原業平：ありわらのなりひら)」。世の中にもし桜がなければ、どれほど心穏やかに春を過ごすことができるでしょう。この歌のとおり、日本人にとって桜ほど縁の深い花はありません。古来、花といえば桜を指したといわれるほどです。暖かくなれば桜は咲いたかとそわそわし、風が吹けば桜が散りはしないかと気がもめる。そんな気ぜわしさも春が訪れた証です。世界的な桜の名所として知られるワシントンD. C. のポトマック河畔。あの桜並木は、1912年に日本が贈った桜の苗木から始まったのは有名な話です。桜の季節が終わった寂しさをなぐさめるように初夏を彩るのは、白や赤の花をつけるハナミズキ。アメリカ東部が原産のハナミズキは、ポトマック河畔の桜のお礼として大正時代にアメリカから日本に渡ってきました。ハナミズキの花言葉は「返礼」。当時の人々の温かい交流をうかがい知ることができますが、このハナミズキの運命はワシントンD. C. の桜とは異なるものでした。太平洋戦争が始まると、それまで日比谷公園などに植えられていたハナミズキの一部は「敵国の贈り物」として切り倒されたり、空襲などで枯れたりしてしまっただけです。人々の心はハナミズキから離れ、存在も忘れ去られました。しかし原木は生き残り、心ある人たちのおかげで再び開花することができたのです。東京都立園芸高校などでは、高さ10メートル、幹回りが1メートルを超える老木が今でも花を咲かせている様子を見ることができます。100年以上前の出来事が今に



つながっている例はほかにもありますが、そこに共通しているのは「人の思いが新たな歴史を作った」ということです。今の商売が100年続くかどうかは運任せでも、商売に込めた思いが本物であれば新たな価値を生み出すことはあるでしょう。人生100年時代、AIが台頭する時代だからこそ、誰に何を贈るか、誰に何を返礼するかを考えながら、今まで以上に人の思いを大切にしたい商売をしていきたいですね。

トナリの

本棚



【1分で話せ】

ソフトバンクの孫正義氏からプレゼンの名手として認められた伊藤羊一氏が「伝える技術」について書いた本です。「シンプルに主張を明確にして実例を挙げて話し、的確に相手の行動を促していく」。すぐにも試してみたい一冊です。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております☺☺☺☺☺☺